

小児インフルエンザ予防接種説明書

小児インフルエンザ予防接種は、接種を希望する人が接種する任意の予防接種です。ワクチンの有効性や安全性を十分に理解したうえで接種を検討しましょう。わからないことや気がかりなことがあれば、医師や看護師等とよく相談してください。十分に納得できない場合には、予防接種を受けないでください。

季節性インフルエンザとは

季節性インフルエンザは急性呼吸器感染症で、発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛などの全身症状が突然あらわれます。潜伏期は24～72時間です。呼吸器症状は遅れて出現することが多く、鼻閉、咽頭痛、せきなどです。合併症がなければ2～7日で治癒します。合併症、特に肺炎や脳症を併発した場合は重篤となります。

インフルエンザワクチンについて

インフルエンザワクチンには、インフルエンザHAワクチン（不活化ワクチン：注射）と経鼻弱毒生インフルエンザワクチン（経鼻生ワクチン：鼻腔内噴霧）の2種類があります。不活化ワクチンと経鼻生ワクチンの有効性に大きな差はなく、また副反応にも大きな問題はありません。

なお、経鼻生ワクチンは経鼻接種であることから、飛沫又は接触によりワクチンウイルスが人から人へ感染する可能性があるため、日本小児科学会は、重度の喘息の人又は喘鳴の症状がある人の接種に関して、周囲に授乳婦や免疫不全患者がいる場合は不活化ワクチンの使用を推奨しています。

ワクチンの効果と副反応

不活化ワクチン (注射)	予防接種により、インフルエンザ感染を予防したり、症状を軽くしたりすることができます。また、インフルエンザによる合併症や死亡を予防することが期待されます。 一方、副反応は一般的に軽微です。注射部位が赤くなる、腫れる、硬くなる、熱をもつ、痛くなる、しびれることがあります。通常は2～3日で消失します。発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、一過性の意識消失、めまい、リンパ節腫脹、嘔吐・嘔気、下痢、食欲減退、関節痛、筋肉痛なども起こることもあります。通常は2～3日で消失します。過敏症として、発しん、蕁麻疹、湿疹、紅斑、多形紅斑、かゆみなどもまれに起こります。 <u>強い卵アレルギーのある方は、強い副反応がでることがありますので必ず医師に申し出てください。</u> 非常にまれですが、次のような副反応が起こることがあります。①ショック、アナフィラキシー（蕁麻疹、呼吸困難、血管浮腫等）、②急性散在性脳脊髄炎（ADEM）（通常、接種後数日から2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害等）、③脳炎、脳症、脊髄炎、視神経炎、④ギラン・バレー症候群、⑤けいれん（熱性けいれんを含む）、⑥肝機能障害、黄疸、⑦喘息発作、⑧血小板減少性紫斑病、血小板減少⑨血管炎（IgA血管炎、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、白血球破砕性血管炎等）、⑩間質性肺炎、⑪皮膚粘膜眼症候群、急性汎発性発疹性膿疱症、⑫ネフローゼ症候群 <u>①から⑫のような症状が認められた場合（もしくは疑われた場合）は、すぐに医師に申し出てください。</u>
経鼻生ワクチン (鼻腔内噴霧)	接種後に体の中で増えたワクチンウイルスに対する免疫ができ、インフルエンザウイルスの感染を予防します。 一方、副反応として、鼻閉・鼻漏、せき、口腔咽頭痛、頭痛などがみられることがあります。また、重い副反応として、ショック、アナフィラキシー（蕁麻疹、呼吸困難、血管性浮腫等）や、海外ではベル麻痺を含む脳神経障害、脳炎、けいれん（熱性けいれんを含む）、ギラン・バレー症候群（手足に力はいらない、しびれ、食べ物が飲み込みにくい、呼吸が苦しい等）、血管炎（発熱、頭痛、倦怠感、紫斑、紅斑等）などが報告されています。

予防接種による健康被害救済制度について

予防接種によって引き起こされた副反応により、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済の対象となる場合があります。

（裏面に続きます。）

予防接種を受けることができない人

共通	①明らかに発熱のある人（通常は、37.5℃以上） ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人 ③過去に、インフルエンザワクチンの接種を受けてアナフィラキシーを起こしたことがある人 ※他の医薬品投与を受けてアナフィラキシーを起こした人は、接種を受ける前に医師にその旨を伝えて判断を仰いでください。 ④その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人
経鼻生ワクチン （鼻腔内噴霧）	上記①～④に加えて、 ⑤明らかに免疫機能に異常のある疾患をお持ちの人又は免疫抑制をきたす治療を受けている人 ⑥経口または注射の副腎皮質ホルモン剤を使用している人 ⑦妊娠していることが明らかな人

予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人

不活化ワクチン （注射）	①心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの人 ②発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている人 ③風邪などのひきはじめと思われる人 ④過去に予防接種を受けたときに、2日以内に発熱、発しん、蕁麻疹などのアレルギーを疑う異常がみられた人 ⑤薬の投与又は食事（鶏卵、鶏肉など）で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたりしたことのある人 ⑥過去にけいれんを起こしたことがある人 ⑦過去に本人や近親者で検査によって免疫状態の異常を指摘されたことのある人 ⑧妊娠の可能性のある人 ⑨間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器疾患のある人
経鼻生ワクチン （鼻腔内噴霧）	①ゼラチン含有製剤またはゼラチン含有の食品に対して、ショック、アナフィラキシー（蕁麻疹、呼吸困難、血管性浮腫等）などの過敏症を起こしたことのある人 ②心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの人 ③過去に予防接種を受けたときに、2日以内に発熱、発しん、蕁麻疹などのアレルギーを疑う異常がみられた人 ④過去にけいれんを起こしたことがある人 ⑤過去に本人や近親者で検査によって免疫状態の異常を指摘されたことのある人、または近親者に先天性免疫不全症の人がいる人 ⑥重い喘息のあるまたは喘鳴の症状のある人 ⑦薬の服用又は食事（鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のもの）で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたりしたことのある人 ⑧発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている人 ⑨妊娠の可能性のある人 ⑩サリチル酸系医薬品（アスピリン等）、ジクロフェナクナトリウム、メフェナム酸を服用している人

ワクチン接種後の注意

不活化ワクチン （注射）	①インフルエンザワクチンを受けたあと 30 分間は、急な反応が起きることがあります。医療機関にいるなどして、様子を観察し医師とすぐ連絡をとれるようにしましょう。 ②インフルエンザワクチン接種後、1 週間は副反応の出現に注意しましょう。 ③接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすことはやめましょう ④接種当日は接種部位を清潔に保ち、いつもどおりの生活をしましょう。激しい運動は避けましょう。 ⑤万一、高熱やけいれん等の異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察をうけてください。
経鼻生ワクチン （鼻腔内噴霧）	①接種後は、ショック、アナフィラキシー（蕁麻疹、呼吸困難、血管性浮腫等）が起こることがありますので、医師とすぐ連絡を取れるようにしておきましょう。 ②接種当日は過激な運動は避けてください。また、健康状態に十分注意し、体調の変化、高熱などの異常な症状を呈した場合には、すぐに医師の診察を受けてください。なお、接種当日の入浴は差し支えありません。 ③接種後 1 ～ 2 週間は乳児や重度の免疫不全の人との接触を可能な限り控えましょう。